

服部禮次郎氏を偲んで

弔 辞

昭和電工株式会社 相談役
公益財団法人 交流協会 会長
大橋 光夫

服部禮次郎さん、貴方の遺影に向い、私は今、深い悲しみの中にあると同時に、「何ですか、元気を出して下さい」と貴方のお叱りの声が聞こえてくるような気がしております。

思えば昨年7月のことでした。交流協会の近況を報告申し上げるべく、慶応病院へお見舞いに伺いたいと、お願い申し上げました。もうちょっと待ってほしいとのご返事でしたが、その直後に服部さんご自身からお手紙を頂戴いたしました。「10月には台湾の国慶節祝賀レセプションに出られますので、その折貴方にもお会いできますよ」とご入院中にも拘らず、心を配られた、そして温かさが滲みでたお手紙でした。

服部さんはお会いする全ての人を引き付け、包み込む魅力をお持ちでした。あの温かさ、優しさにもう触れることができないと思うと、私は心の底から哀惜の念を禁じえません。

服部さんには、数多くの場面でご指導いただき、それぞれに思い出がありますが、服部さんに私がお礼を申し上げたいことを敢えて一点に絞れば、それは交流協会と経団連活動を通じての台湾関係であります。

日本と台湾の間には、日本が中国との国交を正常化した1972年以来、政府間の国交はありません。従って双方の交流を経済、文化など多くの分野で継続することを目的として、日本側は「交流協会」、台湾側は「亜東関係協会」という民間団体を設立し、唯一の実務処理機関としてその役割を40年を超えて果たしております。

「服部さんはその日本側の交流協会会長を1993年から約18年の長きに亘り務められ、多大なご功績を残されました。東京の羽田と台北の松山空港間の空路開設などはその代表的な例ですが、私が会長を引き継ぎましてからの「日台民間投資取決め」なども、実質的には服部さんのご努力によるものであります。このような服部さんの貢献は東日本大震災に際し、台湾から日本へ破格の義捐金が送られたことと決して無縁ではありません。」

服部さんが交流協会会長を務められた間、台湾の総統は国民党の李登輝氏、民進党の陳水扁氏、現在の国民党の馬英九氏と3代に亘っておりますが、交流協会会長ご退任にあたり、2011年10月、日台間の友好関係促進への卓越した功績により、馬総統から「大綬景星勳章」を授与されました。

また、経団連においては、日台間の民間経済交流を維持拡大させるための「東亜経済人会議 日本委員会」委員長を1991年から8年間務められました。その間、今日の台湾繁栄に多大な貢献をされた経済人

である辜振甫さんと辜濂松さんが台湾側の委員長を務められました。

お二人とは家族ぐるみのお付き合いをされ、固い絆で結ばれていらっしゃいました。これは正に冒頭に申し上げました服部さんの人間としての魅力の賜であり、余人をもって代えがたいお力であったと存じます。

そのほか、服部さんの国際関係でのご活躍、ご貢献は枚挙に暇がありません。

台湾からだけではなく、オランダ、スウェーデン、ノルウェー、フランス、オーストリア、タイ、マレーシアといった多くの国々からその功績を称えられ、勲章を受けておられます。

服部さん、いつまでもお話は尽きませんが、服部さんの人を愛する、人の心を豊かにする精神性は、我々後輩の、そして更に後に続く若い人々の心の中に、いつまでも、いつまでも生きていきます。日本が多くの困難に立ち向わねばならない今日、この服部さんの精神性こそ、日本が求める世界の平和と人類の未来のために最も必要だと、私は信じます。

服部さん、どうぞ、これからも天上から我々と日本をお見守りください。

2013年3月15日